

令和2年度「市民対話」でのファシリテーター登用事例

事業実施の背景

鎌倉市が取り組むスマートシティ政策を、より市民に受け入れられる形へと転換するため、「市民対話」の場を継続して開催する。また、その場に高校生や大学生といった次世代の担い手を巻き込むことで、世代を超えて未来を共創することができるのではないかと仮説のもと、市内で活動する学生団体のメンバーのみならず、市内学生にも声かけられ、協働が行われた。

事業における目標と成果

市役所 スマートシティの取組みの学生への普及と次世代のファシリテーションによる円滑な合意形成を目指す。

学生 市の政策の最前線に立ち、意図や方法を知るとともに、市民との対話を通して市が抱える課題を理解し、それぞれの活動に活かす。

成果 学生の声を通して市民に想いを伝えることでより円滑な合意形成に取り組むことができた。また学生と取り組んだことによって、若い世代への広報効果も生まれた。

成果 市をつくる一員としての自覚が芽生え、自分の能力に自信を持つ機会となった。また、職員と深いコミュニケーションを取れたことで、市役所を共創の仲間と再認識できた。

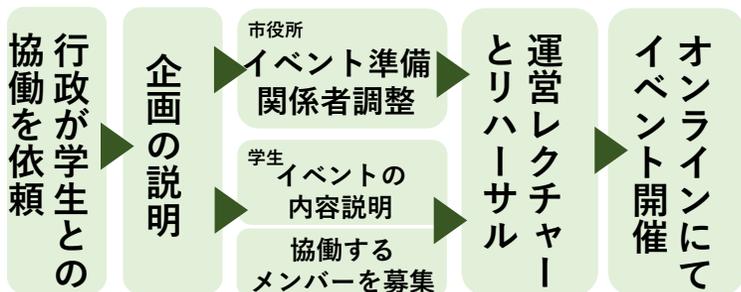
取組み内容

1.市役所プレゼン 2.ディスカッション

1)市長が鎌倉市が大切にする共生についてプレゼンテーション
2)職員がスマートシティについて説明

3)市役所の導入を受け、市民はどういう協働ができるか議論
4)チームごとに考えたことを提案する。

実施までの経路



関係アクター図

